

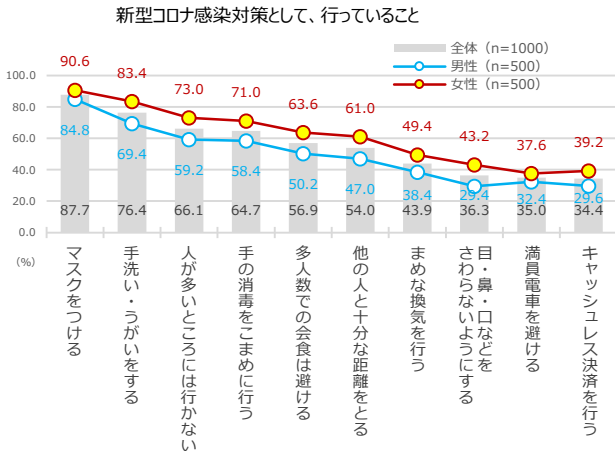
20代～60代の男女1,000人に聞く、コロナ禍での衛生管理実態調査

■ コロナ禍で変化した衛生管理 「マスク着用」と「人との距離感」の変化が大きい

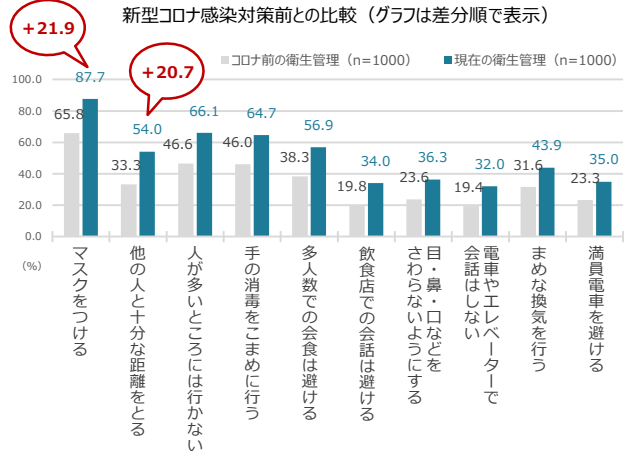
コロナ感染拡大から1年、ウィズコロナの毎日が日常となってきました。実際、どのような衛生管理が行われているのか、コロナ対策として行っている衛生管理について聞きました。現在行っている衛生管理は、「マスクをつける」(87.7%)が最も多く、次いで「手洗い・うがいをする」(76.4%)、「人が多いところには行かない」(66.1%)、「手の消毒をこまめに行う」(64.7%)の順となりました。男女別で見ると、男性より女性の方が衛生行動を実践する割合が高くなっています〔図1-1〕。

また、2020年2月の新型コロナ感染拡大前と現在の衛生管理行動を比較すると、「マスクをつける」(65.8%→87.7%)や「他の人と十分な距離をとる」(33.3%→54.0%)などの実践率が20ポイント以上も高くなっています〔図1-2〕。

〔図1-1〕 現在行っている衛生管理 (複数回答)



〔図1-2〕 衛生管理行動の変化 (複数回答)



■ 衛生管理意識が高く、衛生管理時間も増加。けれど、新生活のコロナ対策には不安が募る

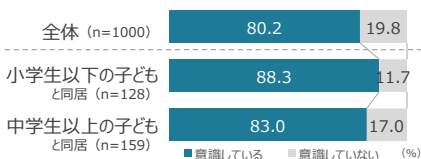
■ 小学生以下の子どもがいる家庭では、一般家庭より一層ケアフルに

家庭での衛生管理意識の程度を聞くと、全体の80.2%が「意識している」と答えました。小学生以下の子どもがいる家庭では、意識する割合が88.3%と一層高くなっています〔図2-1〕。また、感染拡大前と比べて衛生管理にかかる時間の変化を聞くと、4人に3人が「衛生管理にかかる時間が増えた」(73.8%)と答えており、小学生以下の子どもがいる家庭では85.1%とさらに高くなっています〔図2-2〕。4月からの新生活でのコロナ対策に不安を感じるかと聞くと、67.5%が「不安を感じる」と答えており、小学生以下の子どもがいる家庭では、こちらも不安度が76.5%とより高くなっています〔図2-3〕。

収束までにはまだまだ時間がかかりそうな新型コロナ対策。小さな子どもがいる家庭では、一層の取り組みが求められるようです。

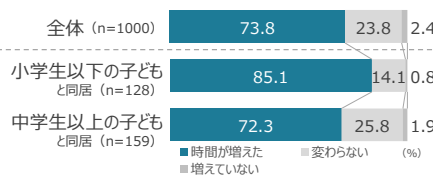
〔図2-1〕 家庭での

衛生管理意識



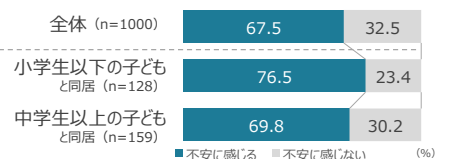
〔図2-2〕 感染拡大前と比べ

衛生管理にかかる時間の変化



〔図2-3〕 4月からの新生活

自身のコロナ対策への不安



新生活のコロナ対策、まずは自分に合ったマスク探しから

コロナ禍の衛生管理で不満を感じることの1位は「マスクをずっとつけているのがつらい」(47.0%)となり、新生活に向けてのコロナ対策の1位も「より自分に合うマスクを購入する」(29.1%)でした。

本文〔図1〕の通り、ウィズコロナで最も変化が大きかったのがマスク生活ですが、それだけに快適なマスク探しがより重要となっているようです。

Q.コロナ対策の衛生管理で不満に感じること

マスクをずっとつけているのがつらい	47.0
マスクや除菌グッズなど買うものが多くお金がかかる	34.0
アルコール消毒などで手が荒れる	29.0
除菌グッズが効果があるのかわからない	20.3
対策情報が多く、どれを信用していいのかわからない	15.9

Q.新生活に向けてのコロナ対策で準備すること

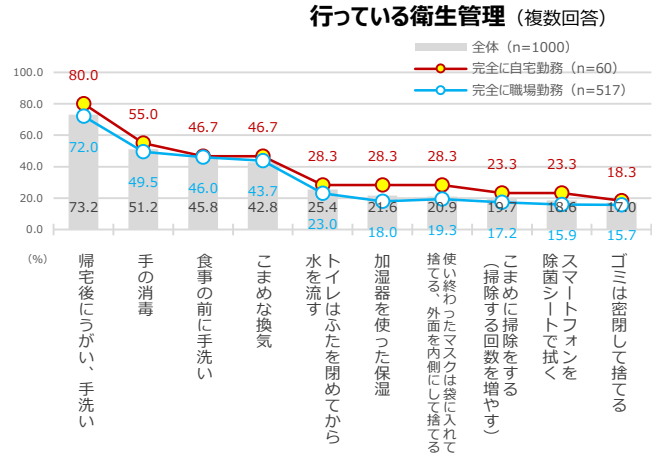
より自分に合うマスクを購入する	29.1
持ち歩く除菌グッズを購入する	27.7
免疫力がつく食品をとる習慣をつける	26.6
家で使う除菌グッズを購入する	25.8
キャッシュレス決済に移行する	12.6

■ コロナ対策としての家庭内での衛生管理 在宅勤務の方が実践度がやや高め

家庭内でコロナ対策のための衛生管理として行っていることを聞くと、「帰宅後うがい、手洗い」(73.2%)、「手の消毒」(51.2%)、「食事の前に手洗い」(45.8%)、「こまめな換気」(42.8%)などが上位に挙げられました【図3】。

この結果を、完全に在宅勤務している人(60人)と完全に職場勤務している人(517人)とで比較すると、在宅勤務している人の方が総じて実践度が高くなっています。在宅時間が長い分、家庭内でのコロナ対策にも積極的に取り組んでいるようです。

【図3】 家庭内でのコロナ対策として



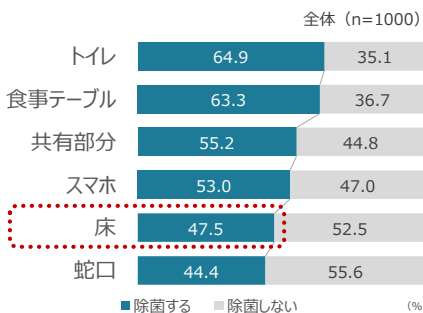
■ 家庭内での除菌実態 除菌するのが最も大変な場所は「床」 毎日除菌している人はわずか15%

家庭内でのコロナ対策として有効といわれているのが、身の回りの消毒・除菌※です。消毒・除菌を行うことで、手指につくウイルスを減らすことが期待でき、感染対策につながります。

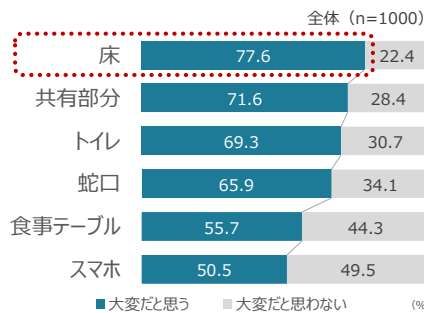
※厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html

そこで、家庭内での除菌行動について聞きました。すると、除菌する場所は、「トイレ」(64.9%)、「食事テーブル」(63.3%)、ドアノブ・電気スイッチなどの「共有部分」(55.2%)の順に多いことがわかりました【図4-1】。一方、家庭内で除菌することが大変だと感じる場所は「床」がトップで、77.6%が床の除菌を大変だと感じています【図4-2】。ちなみに「床」を除菌する人は47.5%と半数以下で、除菌頻度を聞くと、「1日1回以上」除菌する人は15.5%しかいませんでした【図4-3】。

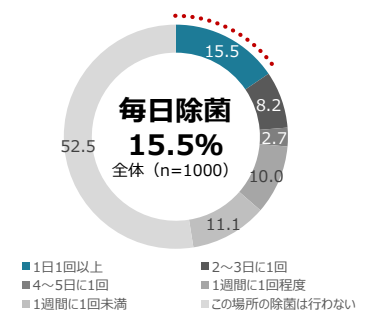
【図4-1】 家庭内で除菌する場所



【図4-2】 除菌するのが大変だと感じる場所



【図4-3】 床の除菌頻度

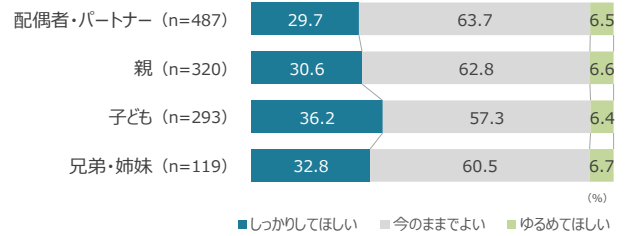


■ 同居する家族の衛生管理 3割が「しっかりしてほしい」と不満に感じている

家族が感染症を発症した場合、一緒に暮らす家族全員が濃厚接触することとなり、家庭内感染のリスクが高まります。

そこで、同居する家族の衛生管理についてどう感じるか聞いたところ、「今のままでよい」という意見が多いものの、「しっかりしてほしい」と感じる人が3割おり、不満を感じている様子が見えます。特に子どもに対しては36.2%が「しっかりしてほしい」と答えており、保護者の3人に1人は、子どもの衛生管理が十分ではないと心配しているようです [図5]。

【図5】同居する家族の衛生管理への不満



■ 6割が“衛生疲れ”を痛感

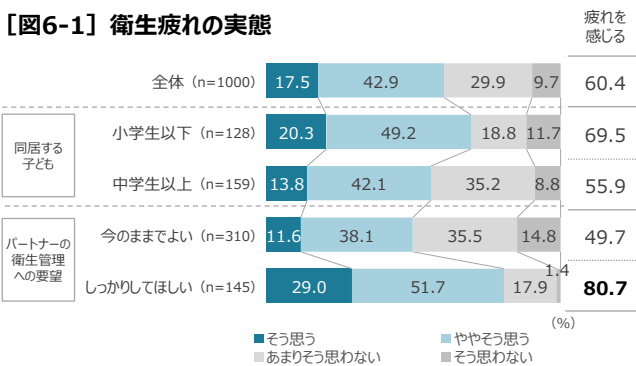
パートナーの衛生管理に不満がある人では8割と衛生疲れも上昇

新型コロナ感染拡大から1年がたとうとしています。家庭内での衛生管理について「疲れを感じる」（60.4%＝そう思う17.5%＋ややそう思う42.9%）と答えた人は全体の6割で、小学生以下の子どもがいる人では69.5%と、“衛生疲れ”がより顕著です。また、[図5]の配偶者・パートナーの衛生管理に対して「しっかりしてほしい」と不満がある人では、80.7%が「疲れを感じる」と答えています [図6-1]。

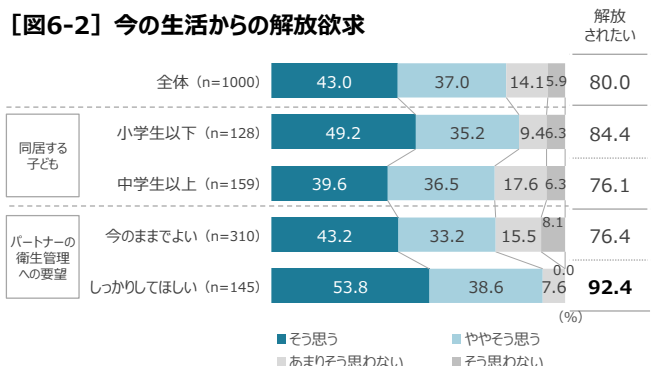
また、今の生活から解放されたいかと聞くと、8割が「解放されたい」（80.0%＝そう思う43.0%＋ややそう思う37.0%）と答え、小学生以下の子どもがいる家庭では84.4%、パートナーの衛生管理に不満がある人では92.4%と、解放欲求がさらに高くなっています [図6-2]。

ストレスがたまりがちなウィズコロナ生活ですが、パートナーの衛生管理に不満がない人は、衛生疲れが49.7%と不満がある人よりぐっと少なくなっています。家族の一人一人が衛生管理に留意することが、家族全員の幸せにつながりそうです。

【図6-1】衛生疲れの実態



【図6-2】今の生活からの解放欲求



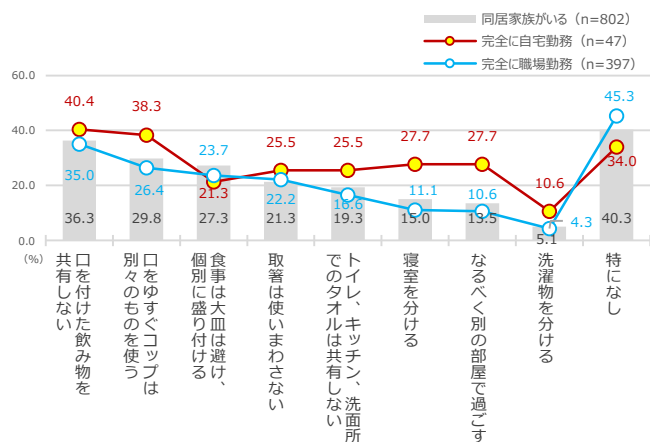
■ ついついやりがちな家族間シェア 特に意識しない人が4割も

家庭内感染を回避するために、家族間で行いがちなシェアをしないことも大切です。

家族間でシェアしがちなことを挙げ、コロナ対策として行っていることを聞くと、「口を付けた飲み物を共有しない」が36.3%と多いものの、「特になし」と答えた人が40.3%と最多でした。家族間のシェアはそれほど意識されておらず、ついついやってしまう人が少なくないようです。

この結果を、完全に在宅勤務している人（47人）と従来通り職場勤務している人（397人）とで比較すると、在宅勤務している人の方が対策の実践度が高くなっています。在宅時間が長い分、家庭内でのコロナ対策が実践しやすく、家族間シェアに注意が向けられているようです。

Q.コロナ対策として、家族間でシェアしないようにしていること（複数回答）

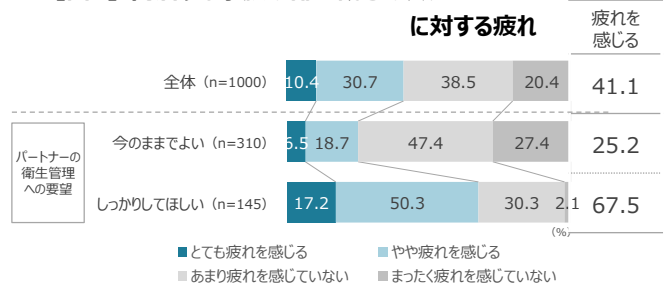


■ 同居する家族の衛生観念のズレも衛生疲れの要因に

前述 [図6-1] の通り、同居するパートナーの衛生管理（行動）に不満を感じる人は、“衛生疲れ”がより顕著になる傾向がありました。

では、同居する家族との衛生観念（衛生に対する価値観）のズレに対して疲れを感じるかと聞くと、4割が「疲れを感じる」（41.1% = とても感じる10.4% + やや感じる30.7%）と答えており、同居するパートナーの衛生管理に不満を感じている人では67.5%と26ポイントも高いことがわかります。逆に、同居するパートナーの衛生管理が今のままでよいと答えた人では25.2%と、疲れを感じる人は少なくなっています [図7]。

【図7】同居する家族の衛生観念のズレ

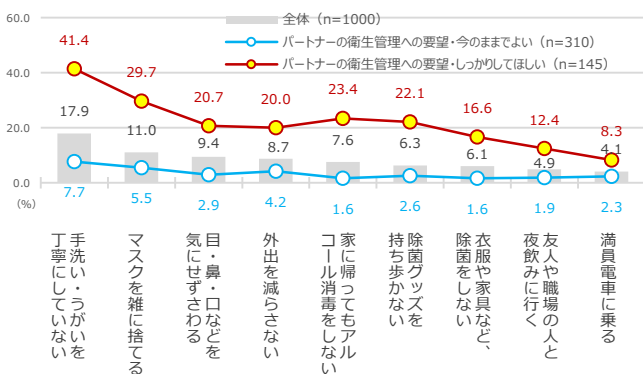


■ 配偶者やパートナーによる衛生疲れ 一番の原因は「手洗い・うがいを丁寧にしないこと」

家族の衛生管理で不満に思う行動を聞きました。すると、1位「手洗い・うがいを丁寧にしていない」（17.9%）、2位「マスクを雑に捨てる」（11.0%）、3位「目・鼻・口などを気にせずさわる」（9.4%）の順となりました。パートナーの衛生管理に対して「しっかりしてほしい」と不満がある人では、いずれの行為も不満のスコアが高くなっています [図8]。

不満を感じることを具体的に聞くと、「家の中からかくしゃみやせきを口を押さえないです」（東京都 50歳女性）、「気軽に人に会いたがったり呼びたがったりする」（埼玉県 30歳女性）など、下記のような不満が挙げられました。

【図8】家族やパートナーの衛生管理で不満に思うこと（複数回答）



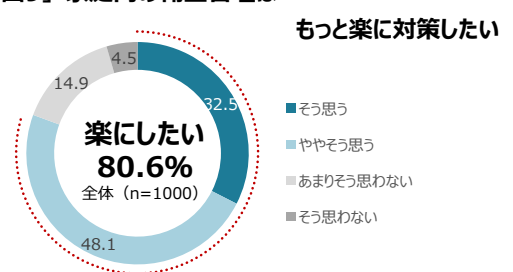
- 自分は手洗いうがいアルコール消毒を徹底しているが、家族はすぐ手洗いうがいを忘れる。それを指摘して言い争いになったりするので不満（神奈川県 36歳女性）
- ゴミを出しに出るだけでもマスクをして欲しい私、短時間は必要ないと思っている夫との意見の相違（東京都 37歳女性）
- 「自分は大丈夫」と思っているところに疲れる（大阪府 43歳女性）
- コロナに関して、かなり無頓着というか気にしないって感じて、使ったマスクをそこかしこに平気で放っておいたりする（東京都 50歳女性）
- 主人が仕事から帰ってきて荷物整理をしてから手を洗うので、何度も注意してもなおらないところ（広島県 52歳女性）
- 手の洗い方が雑。もっと丁寧に洗って欲しい（埼玉県 57歳女性）
- 使用済みのティッシュをポケットに入れたり、トイレの蓋を開けずに流したり、コップの中に歯ブラシを入れて洗ったり、不衛生なことが多くストレス（東京都 65歳女性）

■ 家庭での衛生管理 8割が「もっと楽に対策したい」

家族や配偶者に不満を感じたり、そのことが“衛生疲れ”の要因になったり、家庭内の衛生管理はストレスの要因にもなりがちです。そこで、もっと楽に対策したいかと聞くと、8割（80.6% = そう思う32.5% + ややそう思う48.1%）が「楽に対策したい」と答えています [図9]。

まだまだ収束が見えてこないウィズコロナ生活。家庭内での衛生管理を楽にできるアイテムをうまく活用することが、これからの衛生管理のニューノーマルとなりそうです。

【図9】家庭内の衛生管理は



調査結果を基に、コロナ禍での衛生管理について、暮らしの衛生アドバイザー 吉田真紀子さんにコメントをいただきました。

長期化するコロナ禍

家庭内の衛生管理は無理なく、肩の力を抜いて

新型コロナウイルス感染症の発生により、私たちを取り巻く環境、生活は大きく変化しました。1年が経過してもなお、流行の終わりが感じられず、見えないものと闘い続けることに不安を感じ、大きなストレスになっている方も少なくないと思われます。今回の衛生管理実態調査からもそんな状況がうかがえました。80%以上の方が家庭の衛生管理を意識し、実際に感染予防に必要な対策を実施しています。とくに、9割近くがマスク着用、8割近い人が手洗いを励行しているほか、人が多いところには行かない（66.1%）、手の消毒（64.7%）に重点が置かれており、家庭内にウイルスを持ち込まないために必要な感染対策がきちんと実践されていると思います。

自分自身の感染症対策は必要な方法もわかり、少しずつ慣れてきたものの、家庭内の除菌などの衛生管理については、どこまでしないといけないのかが見えず、とまどっている方もおられるように感じます。家庭内の除菌については、半数以上の方が負担に感じています。リモートワークが続く分、余計に住居内の汚れが気になる中、長期にわたり緊張感を持って日々の対策を続けることは容易ではありません。「コロナ疲れ」という言葉も聞く昨今ですが、本調査でも全体の約6割が家族の衛生管理に「疲れを感じている（そう思う+ややそう思う計）」と回答しています。

新型コロナウイルス感染症の流行が長期化するなか、今後大切なことは、家庭内の衛生管理を無理なく続けることだと思います。幸い、コロナウイルスは住居用洗剤で除去できます。使いやすい掃除道具やサービスも上手に利用するのも良いと思います。風通しをよくして、お掃除もして、爽やかに暮らす。そんな肩の力を抜いた衛生管理を心がけていただきたいと思います。



暮らしの衛生アドバイザー 吉田真紀子（よしだ・まきこ）さん

参考情報

3月21日（日）から期間限定でフロアのキレイをキープする「スタイルフロア ララ」「Mukuモップクリーナー」「すっきり除菌モップ」の2週間おためし無料キャンペーン開始

家庭内での衛生管理に気をつけたい今、ご家庭内の衛生のことを真剣に考え取り組んできたダスキンから、「衛生」と「除菌」が手軽にできるお掃除用具を、2週間無料でおためしできるキャンペーンを展開します。通常、4週間1,627円（税込）のレンタル料金が、今だけ、2週間無料でおためしいただけます。web、お電話、おはがきからお申し込みください。キャンペーンサイトは3月21日0時公開。期間は3/21から6/25まで。

●2週間おためし無料キャンペーン対象商品

- ・普段のお掃除で、細かなホコリまで除去する「スタイルフロア ララ」
- ・汚れを落として除菌・ウイルス除去※ができる「すっきり除菌モップ」
- ・モップで集めたゴミやホコリを吸い取る「MuKuモップクリーナー」
- ・ハンディモップで棚上や高いところも手軽にお掃除できる「スタイルハンディシュシュ」
- ・脱塩素で髪と肌をいたわり「浴室用浄水シャワー」
- ・靴裏の汚れを持ち込まない「家庭用玄関マット」



スマホはこちらから

●キャンペーンサイトURL
<https://www.duskin.jp/special/muryo-try/>

※すべてのウイルスが減少するわけではありません。（ウイルスはエンベロープタイプのウイルス1種で効果を検証）
 ※試験管内の試験であり、商品を用いた検証は行っていません